

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人向日葵会	代表者	中澤 博子	法人・事業所の特徴	地域住民が主体となって設立した保育園を母体とする法人です。その後、地域の高齢化に伴い、地域住民と協力して高齢者福祉に取り組み、現在2つの保育園の他、2つのデイサービス、小規模多機能、居宅介護支援センターを運営、地域包括支援センターをより委託されています。
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所ひまわり	管理者	大谷 麻衣		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	0人	3人	0人	3人	1人	0人	6人	0人	14人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	利用者ひとりひとりのケアプランに基づいたチームケアを目指すために、月1回開催のケア会議を充実した場にします。また、研修に参加しやすい環境や条件整備に努めます。	ケア会議では、利用者ひとりひとりの、変化や気になる点を共有し、より良いケアの実施を目指した。また、職員のレベルにあった事業所内研修を複数設け、会議前など参加しやすい時間帯で実施し、複数の職員が参加した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確実性がないので「分からない」と回答した。</li> <li>・頻繁に、事業所に入出入りしていれば分かるが、実際は良く分からない。</li> </ul>	職員がケアの中で、疑問に思うこと、情報不足のところを明らかにしていき、スタッフ間で声をかけ合い、補いあう。そして、職員一人一人の、得意、不得意をフォローし合い、ご利用者に対して最善のケアを目指す。
B. 事業所のしつらえ・環境	引き続き、小規模多機能ひまわりの存在とその機能を分かりやすくお知らせする工夫、利用者の家族、友人、知人がちょっと訪問したいと思えるような環境づくりをすすめます。	ケアマネ訪問記録や送迎時の連絡事項等での情報を、会議等で共有し、日々のケアに生かすことが出来た。また送迎に行った際や、外出した際に近隣の方へのあいさつを心がけて行った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理事長も気軽にいらっしゃいと言っているのに、入りやすいと思っている。</li> <li>・防犯との兼ね合いもあり、いつでも、だれでもどうぞというのは難しい。</li> <li>・デイサービス、保育園のように通りに看板を出すのはどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通りの看板に「小規模多機能ひまわり」を追加する。</li> <li>・掲示板に「お気軽にご見学、ご相談お待ちしております。」と記入する。</li> </ul>
C. 事業所と地域のかかわり	ケアマネージャーの訪問、送迎時のご家族とのかかわり、ケアなどの際に、地域生活という視点でのコミュニケーションを意識的にを行い、プログラムなどに反映させます。	小規模独自の少人数での外出や、プログラムを工夫し、実施することができた。また、保育園の子どもたちとの交流、第2ひまわりでのイベントの参加など法人内のつながりも測ることが出来た。さらに、デイサービスの非常勤職員が週に1日勤務することで、プログラムの幅が広がったり、デイの方が小規模のプログラムに参加する機会を持つことも出来た。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の概念が分からない。</li> <li>・中新井での行事では関りがあり、交流を持っている。</li> <li>・送迎車の事業所名は、かなりの宣伝効果がある。</li> <li>・ひまわりの手ぬぐいをイベント時に使用する。</li> <li>・看板を設置する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、ケアマネージャーの訪問、送迎時のご家族とのかかわり、ケアなどの際に、地域生活という視点でのコミュニケーションを意識的にを行い、プログラムなどに反映させる。さらに、第2ひまわりや、ボランティアの方々と新たなつながりを構築する。</li> <li>・イベント時に、ひまわりの手ぬぐいを使用する。</li> </ul>
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	リーフレットや「ひまわり通信(小規模多機能 Ver.)」(仮称)の作成を目指し、中新井地区の公共機関(社会資源)に配布・設置を依頼します。また、掲示板に掲示したり、バザーのチラシなどと一緒に配布したり、地域にPRします。	ひまわり通信の小規模版を定期的に発行することが出来た。総括表や改善計画をもとに、日々のケアにあたり、次年度へ向けての新たな課題を発見することが出来た。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・困りごとは事業所に直接相談するというより、地域包括に相談する意識がある。</li> <li>・困っている人に声を掛けるのは難しい。おせっかいになってしまう場合もある。</li> </ul>	事業所として、地域住民の方々に知られている、知ってもらおうという意識を持ち、送迎時にあいさつなどをし、関係性を築くと同時に、各地域の包括支援センターとのつながりを深めていく。
E. 運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議の場を通して、またデイサービスセンターひまわり、第2ひまわりとともに、地域社会への貢献について実践的に模索していきます。	年6回の運営推進会議開催義務を果たすことができ、また第2ひまわりとの合同開催も実施することが出来た。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒヤリハット報告については、この会議の場を出して頂いた意見から、改善することが出来た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、ヒヤリハット報告を積極的に行い、事故防止に努める。</li> <li>・運営推進会議で出た意見で、具体的に実現可能なものから取り入れていく。</li> </ul>
F. 事業所の防災・災害対策	夜間を含めて、利用者ひとりひとりの状況に即した避難方法を検討し、それらを想定した訓練を実施します。	夜間訓練の実施、利用者の方々とともに日中の訓練も実施出来た。また、自治会の防災訓練に参加した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水、お米、カセットコンロ、ガスボンベについて、1~2日は対応可能。</li> <li>・利用者が帰宅困難になった場合、一昼夜過ごせる備蓄はある。</li> <li>・避難所が開設されるまでのつなぎとして利用できるようにしている。</li> <li>・看護師などの専門職がおり、AEDの設備もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度中に夜間訓練を実施する。</li> <li>・自治会等と、具体的な防災備品の情報共有を行い、事業所内で完結し、自治会、地域に頼らずとも環境を整えられるように備蓄する。</li> <li>・事業所として、地域に提供できる支援、資源を備える。(専門職、専門知識等)</li> </ul>